



■病院の概要

令和5年12月1日現在

医師数：497人（常勤換算）
 病床数：922床（一般890床、精神32床）
 外来患者数：1,575人/日（令和4年度実績）
 入院患者数：555人/日（令和4年度実績）
 待遇：1年目約300千円/月（別途、諸手当支給）
 2年目約300千円/月（別途、諸手当支給）

指導医数 195 人	研修医数 35 人	救急件数 1486 件 (令和4年度実績)	手術件数 7072 件 (令和4年度実績)
----------------------	---------------------	------------------------------------	------------------------------------

■初期臨床研修プログラムの一例

- ① 選べる研修コース：当院で2年間または1年間は市中病院で研修可能、周産期プログラムも設置
- ② 広域な研修エリア：たすきがけ研修病院は道内各地40以上、地域医療研修施設は道内外・離島等30以上
- ③ 多様な選択と交流：自由選択は30以上の診療科から選択、連携施設の研修医が短期研修（年間約70名）
- ④ 専門研修への接続：全基本領域の専門研修基幹施設であり専門医取得に向けたシームレスな研修を実現
- ⑤ 学位取得への道筋：本学大学院医学研究科（博士課程）入学希望者は1年次に受験、2年次から入学

1年目	24週以上	28週以上	
	内科	必修分野（救急、外科、小児科、産婦人科、精神科）、自由選択	
2年目	4週以上	4週以上	44週以上
	地域医療	救急（三次救急・集中治療）	必修分野・自由選択
	※1年目を市中病院（たすきがけ研修）、2年目を当院で研修するケース		

■研修医からのメッセージ

私は初期研修をBプログラムにしました。その理由は単純なもので、他大学出身かつ道外出身のため、最も人数の多いパターンで研修をするためです。共通項を少しでも多く持つこと、そして市中病院でも大学病院でも知己の先生を増やすこと、これらのことは札幌医科大学の講座に所属して働いていこうと思っていた私にとって非常に重要なことでした。実際のところ、市中病院でも大学病院でも先生方やスタッフの皆さん、そして似たような経験を他施設で積んできた同期達に囲まれ、学習面、手技的な経験面だけでなく、人脈の面でも3年目以降に繋がる研修ができたと思います。こんな特殊な経歴の私の事もおおらかに受け入れてくれた札幌医科大学の皆さんには感謝しています。私の様に新たな環境に挑戦するみなさんは、当院のように自分の名前を呼んでくれる職場で働くことをおすすめします。この場所なら、縁故がなくても十分活躍する機会が得られるので、挑戦するのに十分な環境かと思います。（甲田 英暁：令和4年度修了、愛知医科大学卒）

私は自治医科大学卒業後、大学病院と市中病院で研修する「たすきがけ」研修を行いました。1年目、大学病院の高度救命救急センターで4ヶ月研修し、重症COVID-19患者さんに対するECMO管理など重症管理を学び、その研修を通して、医師に必要とされる様々な手技を学ぶことができました。2年目の市立函館病院では、1～3次救急や急患対応など大学病院とは異なる疾患群とより多くの症例数を経験し、更に学びが深まりました。大学には指導医が多数いらっしゃるため、学びたいことを明確にして、自分の知識として吸収できる環境です。そのため研修医のやる気次第で学びの幅は広がると感じます。

私のように道外や他大学出身の先生も多数いますので、不安にならず、札幌医大での研修を考えてみてはいかがでしょうか。楽しい研修生活になることを祈っています。（増田 寛也：令和4年度修了、自治医科大学卒）



（オリエンテーションの1コマ）



■連絡先

ADDRESS
 〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目
 PHONE
 011-688-9486
 担当部署
 札幌医科大学附属病院 病院課臨床研修係
 E-MAIL
 kenshu@sapmed.ac.jp
 URL
<https://web.sapmed.ac.jp/byoin/center/index.html>

■専門研修プログラム（基：基幹施設、連：連携施設）

基	連	領域	基	連	領域	基	連	領域
●	●	内科	●		眼科	●	●	臨床検査
●		小児科	●	●	耳鼻咽喉科	●	●	救急科
●		皮膚科	●		泌尿器科	●	●	形成外科
●	●	精神科	●	●	脳神経外科	●	●	リハビリテーション科
●		外科	●		放射線科	●		総合診療
●	●	整形外科	●		麻酔科			
●		産婦人科	●	●	病理			